

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600176		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム 佑紀苑		
所在地	佐賀県杵島郡白石町福富3125番地2		
自己評価作成日	令和4年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年2月14日	外部評価確定日	令和4年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム佑紀苑は、「地域の中のひとつの家として、やすらぎと安心のある生活を私たちと一緒にしましょう」という理念を掲げています。家庭的な雰囲気の中で、入居者様がゆったりと過ごして頂けるように日々努めています。コロナ禍の中、地域の方が声を掛けて下さる事も多いです。勤続年数が10年以上の職員が多く、殆ど変わらないメンバーで、和やかな雰囲気で働けている所もアピールしたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

関わる家族から職員に対してお礼を言いたいと声上がるのは、日頃のケアが報われる瞬間である。話しやすい雰囲気や、不安な事を尋ねられてもきちんと説明している姿勢は信頼へと繋がっている。職員自らがアットホームで働きやすいと評しているのは、離職率が低いところでもある。日頃から管理者が説いているのは、「優しく、大きな声を出さないで」である。掲げた理念には「ひとつの家として」「一緒にしましょう」など、利用者の目線に立った伴走者を窺わせる。利用者毎に応じたケアの実践にはチームワークが欠かせない。職員は互いにフォローし合い、信頼し、ケアに努めている。
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中のひとつの家として やすらぎと安心の楽しい生活を私たちとご一緒にしましょう」という理念を掲げ、入居者様との日々を大切にしている。事業所理念は玄関と事務所に掲示し、職員がいつでも意識できるようにしている。	法人が最初に立ち上げたグループホームである。その際に掲げた理念は後続の事業所でも引き継がれ、代表者の想いが窺える。目に付く場所への掲示で意識付けも図っている。「優しく、大きな声を出さないで」と説く管理者のもと、それぞれの利用者に応じたケアを実践している。「やすらぎと安心」「私たちとご一緒にしましょう」は常に立ち戻る原点であり、日々のケアに活かされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事の沖ノ島参りや子供浮立等、入居者様が参加・観覧できている。福富中学校の夏のボランティアは2年前まで来られており、新型コロナウイルスが終息したら再度受け入れる予定としている。年に2回のクリーンデーには管理者が参加している。	「地域の中のひとつの家として」と掲げている通り、自治会への加入や地区清掃等にも積極的に参加している。コロナ禍ではあるが、今回は開催された地区行事の一行を迎え、ガラス越しながら見物できた事は、地域との繋がりを示している。散歩の途中で挨拶を交わしたり、近所の一人暮らしの方を心に留め置き、関心も払っている。専門知識が役に立つならばと、回覧板を使った情報提供は、地域への貢献でもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の回覧板を用いて、認知症の研修報告書や役場主催の認知症カフェ等の案内を閲覧して頂いている。			

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議は、活動報告書を地域包括支援センターや、区長、民生委員へ文書にて行っている。文書にて地域の事や行政の取り組みについて等の情報・意見交換を行っている。日々の支援に生かしている。	コロナ禍であり、集合の会議は行っていない。事業所の現状報告等は文書で届け、理解と支援を求めている。これまでの集まりでは双方向な意見交換や、メンバー同士が顔見知りとなり、相談し合う場面があった。会議を通して地域との繋がりや深まりも少しずつ増えていると自己評価でも記している。現在の状況が終息に向かう頃にはまた一堂に会し、サービス向上へ繋がるきっかけとなる事を、事業所でも期待している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	白石町役場長寿社会課、地域包括支援センター職員と情報交換を行っている。入居の問合せや行政での取り組みについて度々問い合わせがあり、協力関係を築けている。	行政側とは運営推進会議メンバーであることや研修の場、また入居の問い合わせ等で関わりは多い。世間話も大切なコミュニケーションであり、日頃の信頼が窺える。相談事があれば内容によって電話やメール、また直接出向くこともあるが、実直に対応してもらえる関係は築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、事業所内外の虐待防止研修に参加し、知識を共有し、身体拘束をしないケアに努めている。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は研修や勉強会により身体拘束の内容・弊害も理解している。玄関に施錠はなく、仮に外へ向かう利用者があっても無理に引き返すことはない。行動は抑えないのが基本である。利用者の所在確認は職員の習慣にもなっており、チームワークも相まって安全な暮らしが支援されている。職員に不適切なケアが見られた場合はまず理由を尋ね、全体の事として提起するとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	web研修に参加し、職員間で研修資料に目を通し、職員間でも言葉遣いに気を付けている。お互いに声を掛け合いながら業務に当たっている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数年前まで成年後見制度を利用されていた方のケアを通して、制度について学んだ。3月にも研修参加を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時は入居者様やご家族様に十分に説明を行い、理解・納得して頂いている。不明点についてはいつでも気がねなく、いつでも相談しやすい雰囲気づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員とご家族様が直接話をする機会があり、毎月の入居料支払いや定期受診送迎時に情報・意見交換が出来る。ご家族様が遠方の場合は電話にて対応している。ご家族様にも安心して頂けるように、些細な事でも相談して頂けている。	事前の家族アンケートには事業所への信頼と感謝の言葉が多く記されている。コロナ禍のため、面会は規制中だが、家族は毎月の利用料支払いで訪れているため、会話の機会は続いている。なかなか来られない家族や遠方の家族とは定期的に電話を掛け、来所時と同様に、近況を伝えながら想いを汲み取ろうとしている。ホーム便り(不定期発行)やスナップ写真の送付では、日常の一幕が垣間見られ、家族に好評である。事業所は、家族からの率直な意見にも耳を傾けており、前向きに活かす姿勢が窺える。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や、月末のケア会議等で上がった意見を管理者が代表へ報告している。申し送りノートを活用したり、職員が出勤時に閲覧し、情報共有している。代表、経理からの返答は早急に職員へ伝え、円滑に業務できるようにしている。	職員もアットホームと評する事業所は長く勤める方が多く、離職率の低さは特長のひとつである。毎月の会議では休みの場合も殆どが出席し、管理者はみんなが発言しやすいよう心掛けている。事前の内容周知で職員には考えをまとめておく時間が持てたり、欠席でも意見を伝えておけるツールもある。カンファレンスが主になるが勉強会等も組み込まれており、限られた時間を有効に使っている。日勤・夜勤の連携が取り上げられた際は、それぞれの勤務時間帯ならではの意見を出し合い理解を深めている。また管理者としては、働きやすい職場であるよう配慮も必要で、休暇の希望に応え、定時での帰宅も促している。現場の声は上席にも届けられ、その回答はきちんと返されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は希望休、勤務日等は職員の希望に添えるように努めている。適宜、職員からの意見を聞いて勤務表を作成している。代表者は、一人一が働きやすい環境で長く勤務できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は年に数回、様々な会議に参加している。Web研修も活用し、事業所内での研修で知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の5つのグループホームの管理者が集まり「地域連携協議会」を3か月に一度開催していた。現在は電話で情報交換を行っている。他の事業所での取り組みも参考にしながら、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が話しやすい雰囲気づくりを心がけている。特にサービス利用開始時の不安もある中で、日々一緒に生活しながら職員にも慣れて頂いている。1対1の時間を作り、相談や要望を聞きながら、少しでも安心して暮らして頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みや見学時に、話しやすい雰囲気づくりに努めている。心配事や「こうしてほしい」といった要望に添えるように職員同士のチームワークも大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を見極め、安心してサービスを利用して頂けるように、各職種が連携して入居者様とご家族様を支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りや料理の味付け等、暮らしの中で職員が教わる機会も多い。何かひとつご自分の役割を持って頂きながら、職員とともに日々の生活を楽しまれている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしていても、入居者様の状況を定期的に報告し、必要時にご家族様にも快く協力して頂けている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やお孫さんへの絵手紙や、ご近所の方からの月に1度の電話の取り次ぎ、馴染みのお寺へお連れする等、苑に入居された後も馴染みのお付き合いを継続して頂いている。	初期対応の中で本人や家族等と話をする機会がある。困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けている中でこれまでの人間関係等も把握している。集めた情報を基に具体的な支援を行い、関係の継続に努めている。コロナ禍でなければ盆正月の帰宅や自由な外出もあったが、出来る範囲で支援している。身内の弔事へ出席してもらった事や、電話や絵手紙での交流、馴染みの美容院や受診時の自宅立ち寄り等々がそれである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声を掛け合い、得意分野を生かして助け合って生活されている。物静かな方は、孤立されないようにさりげなく職員が間に入って声をかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期に入居されていた方は、担当者から近況報告があったり、必要に応じて支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の要望を大切にしたプラン作りに努めている。やりたいこと、食べたいもの、行きたい場所など、なにげない会話の中で聞き出せるようにしている。心配事や不安があれば傾聴し、少しでも安心して頂けるように支援している。	日頃のケアの中で、特に入浴中の寛いだひとときには想いを話してくれることが多い。隣に座り話し相手をしている時やスキンシップを交え寄り添っている時も同様である。言葉数が少ない利用者とは好きな話題を振り、会話に入ってもらおう工夫もある。何気ない会話こそを大切にしている。聞き取った事は申し送りノート等で共有を図り、そこからケアプランに反映させた例もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様にも協力して頂き、生活歴や趣味、嗜好を理解しながらケアを行っている。カラオケが苦手、騒がしいレクレーションがきっかけでデイサービスの利用を中止となられた、等の必要な情報共有も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェック、心身の状態を把握し、申し送りノートも活用しながら状態の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で定期的にミーティングを実施し、ご家族様からの要望等を情報共有している。職員の意見も出し合いながら、ケアプランを作成している。	ケアプランの設定期間は、入居して間もない時期は3カ月毎、その後、状況をみながら6カ月毎に変更される。長期目標であれば1年を目安としているが、その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。本人の希望は日頃の暮らしの中で把握し、家族の想いは来所時や電話での会話から汲み取っている。家族からはこのまま元気で穏やかにと現状維持を望む声が多い。また事前の家族アンケートでは「ケアプランの説明は受けたが話し合っていない」との回答も複数あった。想いの行き違いが窺えるが事業所では真摯に受け止めている。家族も共に関わっていると意識してもらえるよう更なる対話を模索している。ケアプランの実施状況は日々記録され、毎月のモニタリングに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に日々の様子や、ケアプランに沿ったケアの記録を行っている。申し送りノートを活用し、職員の気づきや入居者様の情報を共有をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院を嫌がられる方は、往診を利用して頂いたり、柔軟に対応できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護を利用されている方は、福祉事務所からの面談もあり、安心して生活して頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望に沿ったかかりつけ医となっている。自宅の隣に昔からのかかりつけ医がある方は、馴染みの関係を継続して頂いている。定期受診時には顔なじみの方と再会される日もあり、笑顔が見られている。	昔からの馴染みの医師の元へ通う方や、入居後に説明を聞き納得して協力医へ変更を希望した方など、各々が希望するかかりつけ医となっている。受診では病院で家族と合流するケースもあり、近況を伝えたり要望等を聞き取る機会にもなっている。また家族のみが付き添う場合は日々のバイタル等を持参してもらいスムーズな診療へ繋げている。他科受診での病院選択についても本人や家族の意向に沿っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の健康管理を行い、心配事は看護師やご家族へ相談している。急変時には受診して頂き、適切に治療を受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族や医療機関との情報交換を適切に行っている。早期の退院ができるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」の説明を行い、同意を得ている。要介護度やご本人様の健康状態を踏まえ、特別養護老人ホームへの申し込みや、医療機関への入院等、職種間で話し合いながら支援している。	入居契約時に説明する指針にはターミナルケアの考え方やケア内容等が明記されている。医師による病状説明がある事、容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちを踏まえ随時の話し合いを持つ事、また家族間の意思の統一にも触れている。これまでに看取りの経験はないが、希望があればその用意はあり、ターミナルケア開始となれば職員の勉強会も組み込まれる。本人や家族が安心して納得した最期が迎えられよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、マニュアルを作成し、応急・救急時の対応ができるように訓練をしている。消防署からの消防訓練時に、AED操作訓練等同時にも実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。地元の住之江消防団や、消防機器業者にも立ち会いして頂いている。近隣住民、区長、民生委員と共に消火器の使い方について学んでいる。	年2回(4月昼間帯・11月夕暮れ時・実際の夜間は想定のみ)の訓練には消防署や消防機器業者も立会いアドバイザーでもある。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器や通報装置の使い方も承知している。非常食や水、寒さを凌げる物の備蓄もあり、一時避難場所は家族にも伝えられている。行政の防災無線が設置されており、自然災害時には情報源となる。課題としていた近隣住民の参加は難しいままだが、今後も協力をお願いしていく事とし、避難過程を順に追っていく事で気付いた不備には、見直しも検討している。訓練での反省点や課題は、優先順位の高い件から速やかに改善され全員に周知している。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	視線を合わせて丁寧な言葉かけを行うようにしている。共同生活の中で、プライバシーの確保が守られるように配慮している。	同性によるケアについては本人に意向を確認している。入居して間もない頃は特に、不安を和らげる効果もある。トイレや入浴の介助では羞恥心への配慮が求められるが、トイレ使用を隣同士ではなく離れた場所と使い分けてみたり、ドアは確認できる範囲まで閉めておく等、日頃の気付きを活かしたケアである。また個人情報の取り扱いに対して守秘義務の意識は高く、業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払っている。ホーム便りや所内での写真掲載については入居時に承諾を得ており、各居室の名札は敢えて付けていない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中で食べたいものや、したい事等の要望を話しやすい雰囲気づくりを心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご希望に添えるよう努めている。必要時にご家族様に協力して頂き、自宅への外出や馴染みの美容室の利用等をされている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替えや衣類の準備は可能な限り、選んで着て頂いている。男性の方は毎日のひげ剃りを介助し、身だしなみを整えて頂けるように支援している。			

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し、楽しい食事の時間になるようにしている。食材の宅配サービスも週に3回利用し、入居者様には豆の皮むき等、簡単な下ごしらえを手伝って頂く時もある。干し柿づくり等、季節を感じられる事にも時には参加して頂いている。	食材配送がない日は利用者に食べたいものを尋ねたり、冷蔵庫の中身で献立が決まる。対面式キッチンからは調理の音や匂いがして食事時を知らせている。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手の食材や献立には代替えもある。出来るだけ自分で口へ運んでほしいとの思いから介助は最小限に止め、声掛け等で促している。食べやすい形状や持ちやすいスプーン等の工夫もあり、食欲は良好である。また誕生日は当日に祝い、ケーキや和菓子など希望のおやつが用意される。コロナ禍前は職員も一緒にテーブルを囲んでいたが、現在はテーブル上に透明の衝立が置かれ、職員は少し遅れて食べている。これは利用者との密接を回避する策でもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定にて、増減を考慮しながら健康状態や食事摂取量の把握をしている。食事形態も食べやすいものにし、しっかり栄養と水分を取って頂けるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアにて、口腔内の清潔を保っている。義歯や歯茎に変化あれば、協力歯科医院に相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、定期的に声かけ、誘導が必要な方は介助を行っている。便秘にならないように職員間での情報共有を行っている。	排泄に関して利用者の3分の2程度は自分でトイレへ行っているが、任せたままではなく、さりげなく見守っている。日中はトイレでの排泄が主であり、夜間は自室のポータブルトイレを使用する方もある。丁寧に記録されたチェック表からは水分摂取量や排便状況も見て取れ、欠かせない情報となっている。入居後の適切な誘導等でパット・オムツ類の使用枚数が減り、費用負担の軽減に繋がった例もある。トイレ内には程よい位置に手すりを設置し、自立を助けている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分を多めに摂取して頂き、軽い体操等も毎日取り入れている。ヨーグルトやヤクルト等もおやつ時に提供し、便秘薬や坐薬を使用されている方の、状態把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の健康状態や、心身の状況により、入居者様の気持ちを大切にしながら対応できている。月水金・火木土の方に振り分けてはいるが、状況によって対応できている。	入浴は週3回(午前中)を目安にしているが、風呂の準備は毎日出来ているため、希望があればその限りではない。拒む方には無理強いせず、あくまで利用者の気持ち優先だが、長く続けば職員のテクニックを活かし誘導することもある。清拭や足浴も織り交ぜながら、入浴しない日でも下着肌着の交換は行っている。入浴剤の香りで寛ぎながら想いを話してくれる利用者もある。浴室の手すりに付けた掴まりやすいグリップは浴槽からの立ち上がりにも役立っている。冬場は脱衣場の暖気を浴室へ送り、ヒートショック対策としている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣に応じて寝具の調整を行っている。室温や照明にも配慮し、安眠して頂けるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は内服薬について把握をしている。氏名、日付けの確認を行い、飲み忘れないように服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを発揮して頂く機会とし、野菜作りや誕生会のお歌い披露、毎日のカレンダーめくり等、好きなことをして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて外出が可能であれば、神社へのお参りや近隣への散歩、お花見や買い物へお連れしていた。お寺の総代をされていた方で、入居後も気になられた為、ご家族様の許可を得てお寺へ同行したこともある。感染対策にも考慮しながら、ご希望に添えるように努めている。	利用者から外出の希望があれば家族とも相談しながら対応している。テレビから季節の話題が流れると興味を示す利用者もある。コロナ禍でなければ介護タクシー等も利用しながらみんなで出掛ける日常があった。天候や体調をみながら周辺への散歩は続けている。家族アンケートでは、戸外に出掛けているのか否か分からないとの回答もあり、事業所ではスナップ写真等の送付をしているもののアピールが必要なことを実感している。日差しを浴び、五感を刺激することは必要との考えから殆ど外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は所持されている。お出かけの際にはなるべくご自分でお支払いをされるように、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や絵手紙のやりとりを定期的にされており、レターセットや切手の準備をしたり、住所の確認等を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日の大半を過ごされる場所である為、居心地の良い環境づくりに努めている。遮光や照明、温度、湿度にも配慮している。空気が乾燥しやすく、こまめに換気を行いながら寒くならないように気をつけている。	リビングには明るい陽が差し込んでいる。脇に置かれたソファは絶好の日向ぼっこスペースであり、夏場はグリーンカーテンで日除けを考えている。利用者の動線上に行動を妨げる物はなく、掲示されたスナップ写真には台詞を付け、外出や行事の一幕を楽しく表現している。国道脇に建ちながら車の騒音は殆ど気にならない。通常、掃除は職員が行うが、居室は自分でする方もある。居室共に換気に配慮をし、手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。トイレや浴室もきれいに掃除され、嫌な臭気はない。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の配置には、なるべく気の合う方と隣同士になれるように配慮している。お一人でも寛げるように、自由にソファーも利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅で使用されていた馴染みのある家具や布団等を持ち込みして頂いている。ご家族様との写真やプレゼントのお花を飾ったり、安心して頂けるような環境にしている。	居室に持ち込む品物は火気等の危険物以外に制限はない。本人と話し合いながら配置を決め、居心地よく過ごしてもらえるよう支援している。衣替えの手配は職員が行うが、寒くないようにと早めに届ける家族もある。天気の良い日には寝具を干す手間も惜しまない。家庭と同じである。また家族が希望すれば居室に泊まることも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、自立を妨げることのないように、必要以上に手を貸さず、時には見守る姿勢で入居者様と接するように気をつけている。事故のないように、食事時の誤嚥や、移動時の転倒防止に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない